

住信為替ニュース

THE SUMITOMO TRUST & BANKING CO., LTD FX NEWS

第1837号 2006年07月31日(月)

《 Is she really a big elephant ? 》

今回は主にインドを取り上げます。このニュースでは過去にもインドを二回大きく取り上げてきました。私がインドに行ったときを中心に。それは2004年の年初と、今年初めでした。このニュースとは少し視点は違うが、この二回のインド訪問に関する文章は、私のネットサイトにも残っている。

2004年始め = <http://www.ycaster.com/chat/2004india.html>

2006年始め = <http://www.ycaster.com/chat/2005india.html>

二回とも「混沌としているが繁栄するインド」を取り上げました。日本では注目されませんでした。インドは先週利上げをしました。短期金利を0.25%引き上げたのです。具体的には、短期金利の指標となるリバースレポ金利を6.0%とした。国際原油価格の高騰でインフレ懸念が強まっていることに対応したものだ。むしろ大きな背景はインド経済の好調にある。そしてこのインド経済の好調に誘われて、インドの株式市場には日本からも大きなお金が投じられている。

それは良いのですが、インドはまた世界でも例を見ない貧しい民を抱えた国でもあります。一方でインドは世界最大の民主主義国家とも言われる。インドは非常に政治を予想し難い国になっているのです。その良い例は2004年の総選挙で、インド国内でも世界でも当時のバジパイ BJP 政権の勝利が予想されたのに、実際には今政権についている kongress 党が勝利して、マンモハン・シン首相が政権の座に着いた。

実は今年の6月中旬に10日間ですが、日本でもあまり報じられないことのないインドを見る機会を得ました。NHKからのオファーで、同局の「地球特派員」という番組の特派員としてインドに行って、「繁栄に取り残された部分のインド」を見る機会があったのです。放送は7月16日でご覧になった方もいらっしゃると思いますし、それを見逃したという人でもBS1を中心に再放送されているのでご覧になる機会もあるかもしれません。

今回はテレビとは別に、文章の形でインドの現状とそれが意味するところをお伝えしようと思います。中国とともに、今世界で最も注目される国・インドの実情を頭に入れておくことは、世界的な投資の流れを考える上で役立つと思うからです。話のポイントは以下の通りです。

- 1 . IT 産業の興隆とは対照的に、インドの人口の 8 割を抱える農村では農家の困窮化と農夫の自殺が急増している。これは、例えば綿花生産などでのハイブリッドな種の購入が増える中、現金で種を買えない農家が借金をして購入する傾向を強めているため。しかしこの種は必ずしもインドの天候環境に合致したものではなく、干ばつがあると収穫は農民達の予想を大きく下回り、それが 2 年も続くとクビが回らなくなる。農村での自殺増加の大きな要因である
- 2 . インドの農村成人の恐らく 8 割以上は完全の文盲か、文章を読めてもほんのわずかな人々であり、こうした人達の無知につけ込んでお金を貸し、返せないとその農民の持つ土地を取り上げるといった収奪的な行為が横行している。この結果、都市の繁栄とは対照的にインドでは農村の荒廃が進み、その結果都市への人口流入となっている
- 3 . その都市流入人口は大部分がスラム居住者となるが、そこはまた子供達を教育する手段が全く途絶える場所である。スラムの子供達は一日中群れて遊ぶだけで、ほとんど学校に行っていない。ここでも非識字者が増えつつある。識字できないのでは、インドで台頭しつつある産業（IT など）に参入することは出来ない。彼らは貧困のまま将来を過ごさねばならない
- 4 . インドでは様々な形で「分断（デバイド）」が進んでいる。繁栄する都市と、その中にいながらも繁栄に参加できないスラムの住民。コルカタでは住民の半分がスラム住民である。都市と農村という分断も進むし、ヒンズー教徒中心のインド社会の中でどちらかといえば底辺に住むイスラム住民の底辺化は着実に進行していると言われる。ムンバイの列車爆発事故では、インドのイスラム教社会の中からも逮捕者が出た
- 5 . 相変わらずカーストの意識は農村を中心に強い。政府は指定カースト、指定部族という最下層の人々に対する優遇枠（高級大学、高級公務員採用に関する 22 . 5 % の特別枠）に加えて、「その他の後進的カースト OBC、一説にはインド人口の半分」に対して大学入学枠で 27 % の優遇枠を与えようとしている。しかしこの動きに対しては、「国民のカースト意識を強める」との反対意見もある。インド経済は低い水準からのスタートであり今後も成長は続くが、抱える問題は根深い

今回を含めて、二度か三度でお伝えする。

《 tillers in distress 》

3 回目の訪問にして、私は初めてインドの農村に行きました。活力溢れる、行くたびに「進歩」を感じるインドの都市に対して、そこには想像を絶する世界があったのです。

私が行ったのはインド中部の大都市で、IT 産業の伸びつつあるハイデラバードから車で

5時間かかるパントゥルパッリーという中部インドの典型的な農村。戸数は200戸、人口は500人。「戸」「家」と言っても、全て部屋に床はなく、土間です。家の大きさは、日本の言い方で言うと全部合わせても8畳もない。とにかく座る椅子とてない。多分土間にそのまま座って生活しているのでしょう。その証拠に、「どこに寝ているのか」と家人に聞いたら土を指さした。

電気は家の中にたったハダカ電球が一つ。キッチンと言っても、薄手の鍋数個が火鉢のようなところに置いてあって、どれがまな板なのかもわからない。奥には汚い根野菜がいくつか転がっていて、そこではランプで仕事をするのだそうです。テレビなし、ラジオなし、ましてインターネットなし。この家のご主人は、最近自殺した。残された奥さんには、子供二人、2才(男)と5才(女)が残った。

この家のご主人が自殺したのは、BTコットンという綿花の種で偽物を掴まされたことと、それに関連して銀行や親戚、はては異常な高金利を取る民間貸し金業者からお金を借りて、返済の見通しが立たなくなったため。問題は彼女のご主人が例外的な存在でない点で、インドの政界でも「農民の自殺」が大きな問題として取り上げられていた。日本でも、「インド農民、10万人が自殺」の大きな記事が6月中旬に出た。

インドの綿花農家は、いままで伝統的な種で農業を営んでいた。そこに、アメリカの農法にあったモンサント開発のBTコットンというハイブリッド種が入ってきた。害虫駆除に効果があるとされるこの種は、インドでも急速に普及している。なにせその種を使った農家の綿花畑には害虫がつかない。代わりに、伝統的な種を使っている農家の畑に大量の害虫が集まるから、となりの農家がBTコットンを使うと、使わざるを得ない。広がるのだ。

しかしBTコットンは安いものでもなし、害虫は寄せ付けないがあらゆる条件で高収量を保証しない。もともとアメリカの産地にあった種で、十分な水分が供給されないと種自体の割高さにあった収量はない。しかし、インドの天候は極めて不順であり、そもそも水分不足が深刻なインドの農村にはあっていない面もある。だが、隣が使っている限り、BTコットンの使用をやめるわけにはいかない。

ある農家のご主人はBTコットンの種を買うのに年収の1割を、その他肥料など費用を全部入れると、綿花農家の年収の7割はコストに消えると言っていた。そのために借金もしている。干ばつなどで収穫が著しく減った場合には、直ぐピンチになる。しかも、話を聞いていると、彼らは借金の怖さを知らない。インドの農村に金融が入ってきたのは比較的最近だと聞いた。つまり慣れていないのだ。無邪気に借金をしているように私には見えた。

むろん、インドの農民といっても全部が全部困窮しているわけではない。市場経済が急速にインドの農村にも入ってくる中、逆に相場の動きを見ながら作付けする作物を変えたり、出荷時期を調整したりしながら農業できちんとやっている人もいる。「自殺するのは弱い奴」と語る村人もいた。しかし、インド政府の統計でもインドの農村は年率8.4%といった高い成長率を誇るインド経済の恩恵を受けてはいない。あるインドの専門家は、「GDPに占めるインドの農業の規模は25%だが、そこに人口の8割がいる」と語っていた。

膨大な数だ。

インドの農民の一部は、故郷での行き詰まりから都市に流出している。しかも家畜も連れて都市に来るケースが多いから、スラムに住み着く際にその飼育を放棄し、その結果インドの都市には牛など家畜が野良家畜状態になって徘徊することになる。実際インドの都市に行くと、ゴミをあさる牛などをよく見かける。

しかし都市に出てきても、ほとんど文字も読めない、特殊な技能もないインドの農民に良い職業が用意されているわけがない。ほとんど収入がないままに捨てられたモノを拾ったり、子供を働かせたりしながら生活することになる。スラムに入れるのはまだ良い方で、コルカタ（カルカッタ）では道に生活し、車の多い大通りの中央分離帯で洗濯物を干す一家をいくつも見かけた。彼らのテントの上には、最新式の携帯電話の宣伝看板があるといった具合である。

《 many divides in India 》

日本でも「格差問題」が大きな政治課題になりつつある。しかしインドに行くと、「デジタル・デバイド」という時に使われた「デバイド」（格差、分離）が社会の至る所に存在することが分かる。しかも非常に深刻な「デバイド」が多い。それを少し整理する。

「貧困と富」=世界銀行が採用している「1ドル当たり所得/日以下」を基準にしても、インドには4億人以上の貧困層がいる。インドに存在する貧しさは行けば直ぐ分かる。車が信号で止まると、物乞いや物売りが来る。彼らはボスの下で働いている。あがりが少ないければ叩かれたりするらしい。豊かになるプロセスから置いて行かれた人々。あまりにも大きな格差が存在する。しかもそれが日常的になっているが故に、日本人には不思議に思える。

「宗教」=インドはヒンズー教を国教とする非イスラム教国であるにもかかわらず、世界でも最も数多くのイスラム教徒を国内に抱えた国である。イスラム教徒はパキスタンやバングラデシュなどイスラム教国に近いところばかりでなく、ハイデラバードなどインドの中部にも多い。問題はインドのイスラム教徒が疎外感を強めていると見られる点だ。ムンバイで発生した列車連続爆破テロでは、インド国内のイスラム教徒が捕まっている。

イスラム教だけではなく、シーク教など多くの宗教が存在するインドでは、歴史的にも見て数多くの事件、テロが起きている。宗教間の「デバイド」は大きい。

「人種やカースト」=カーストはインド亜大陸に南下したアーリア人のドラビダ人などに対する差別意識からスタートした。今のインド人の80%以上を信徒とするヒンズー教そのものが、自らの体内に非常に数多くのデバイドを走らせている。それがカースト

トである。肌の色の差別から職業の区別まで、その種類は3500以上に上るという推計もある。アウト・カースト（カースト外）と呼ばれるダリットの存在もある。ダリットは道路掃除、糞尿の処理、洗濯などに職業が制限される。インドにおける人種やカーストのデバイドは深い。

「教育」=インドはITや医療などでは、世界の先頭を走るインテリジェントな国であり、それがこの国のパワーである。しかしその一方で、字を読めない人が3割以上もいる。理想的なのは小中学校など初等教育の分野から国民皆義務教育で教育の全般的なレベルを上にも揃えることだが、これは広大でかつ多様な民族、宗教が根付いているインドにおいてはかなり難しいし、また膨大な資金が必要である。日本の教育が広く普及していた江戸時代の寺子屋から比較的素早く移行したのと非常に対照的である。

「情報」=インドの都市も基本的には世界の都市と変わらない。新聞は数え切れないくらい多種多様にあって情報が溢れ、かなりの人が英語を理解するから、我々日本人が行っても大都市にいれば情報量は東京にいるのと変わらない。しかし、インドは少し都市が中規模になれば、最高のホテルでも部屋でネットを利用することは出来ない。農村に行けば電気がないところも多い。電気がなければ、ラジオやテレビもない。そういうところでは新聞もこない。

《 ECB FOMC and BOJ meetings 》

続きは次号以降をお楽しみに。今週の主な予定は以下の通りです。

7月31日（月）	6月鉱工業生産（速報） 6月住宅着工件数 6月建設工事受注 米7月シカゴ購買部協会景気指数
8月1日（火）	7月新車販売 米6月個人所得・支出 米6月PCEコアデフレーター 米6月建設支出 米7月ISM製造業景況指数 米7月国内自動車販売台数
8月2日（水）	水野日銀政策審議委員講演（福岡） 米MBA住宅ローン申請指数（7・30週分） 英中銀金融政策委員会（～3日）
8月3日（水）	米6月製造業受注 米7月ISM非製造業景況指数

ECB理事会

8月4日(金)

米7月雇用統計

注目は今週の ECB 理事会から来週の連邦公開市場委員会 (FOMC) や日銀金融政策決定会合などに続く重要会合です。一方では、緊迫する中東情勢や高値圏にある原油相場の先行きに対する不安もある。今は ECB 理事会については利上げ予想が強く、FOMC については据え置き予想が強い。上げ下げのムーブメントは重要ですが、その後の金利差も重要です。日本銀行の次の利上げは、かなり先でしょう。

米雇用統計も重要です。この三ヶ月、非農業部門の就業者数が米景気拡大を象徴的に示す雇用の伸びのレベルを下回っている。FOMC 前の一番重要な数字になる可能性がある。

《 have a nice week 》

週末はいかがでしたか。やっと梅雨明け。また暑くなるんでしょうな。私はこの週末はずっと諏訪でした。いろいろ用事があったので。岡谷市の災害現場にも行きました。そこで写真も撮りましたので、興味のある方は私の HP (<http://www.ycaster.com>) でご覧ください。

6月中旬のインド10日間のロケは、なかなか大変でした。インドは三回目ですが、今回初めて夏に行った。外気温度は日中は45度に達する。おまけに、都市は湿度が高い。ロケ車と外を出たり入ったりするので、体調がどうしてもおかしくなる。私は慣れていましたが、スタッフの中には体調を壊すものもいた。

まだまだインドは混沌です。しかし、インディラ・ガンディ国際空港の近くのグルガオン(日本人も非常に多く住む)などは、2004年に行ったときと比べると極めて綺麗になってきました。楽しみな国です。

《当「ニュース」は住信基礎研究所主席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)の相場見解を記したものであり、住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情報源から入手したものです。正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》